

		X 等身大	Y 即興行為	Z 市
39:00	混在する時間 36 min X-Y-Zの電極 ①視線を最後まで見せる ②途中で断念 切る Xを断念 Yを断念 やりたかったのに出来なかった やりたくないのにやってしまった やりたくて出来た	物の出し入れ 視線-恋人が来る 化粧 ボール投げ 視線-ボーリング-投千円 キャベツを食べる 視線-交差点の面で スプレー 視線-私服警官を殺せ 菊を供もす 視線-祖父への供養 歯を磨く 視線-休日の朝 深夜 コイン	←ダンボールで転がる けんけん 水をかけられる ←床を拭く ドンゴロス ロープ引き 巻きつかれて転がる 傘を探す 滑車→崖から落ちる 莫塵をかける 「タクシー」	平手との酒盛り ロープに引きずられる 居合い キャベツを傘で刺す 濡れたダンボールの上を歩く ロープから逃れる ダンボール (大) 平手との命の掛け引き コイン
51:00	市の旅路の時間 ロードシアター 15min 空間をブックエンドを使って 縫うように歩く			(言葉) おたね 平手造酒 やくざ 裏街道で出会った人々 出来事 市の世界
60:00	混在する時間 焦げつける時間 9min Yを中心にしたトマト トマトX (中断・同機・横軸) → トマトY (縦軸) Yを切断→Zの断片 やり切れていないこと 残っている物を焼き尽かせる			

(物)

傘 サングラス 白タオル あんま笛 浴衣
 ダンボール ブックエンド ロープ 滑車 コップ キャベツ ボール
 ドンゴロス 莫塵 スプレー お金-コイン

パーマネント バケーション

ときどき思うんだ サッと生きて早く死ぬ
パーカーのように白い三つ揃いで棺に入る
悪くないぜ

女は胸から紙を落とした
見知らぬ男が拾って 夜自分の部屋で
それを読んだ
そこにはこうあった 棒につけた絹のネットで
彼女は自由に駆けるハチドリを追った
願いがかなったら そのお礼に一
花輪を編んであげるわ・・・
私は娘の死を招いた事件の場にいなかった
その場にいたら 血を流してでも娘を
守ったろう・・・
マルドローが通りがかり
木陰で眠っている少女を見た
彼は一瞬少女をバラかと思った
彼の心を最初に横切った考えは
少女の事が彼自身の行動の事か
彼はいささかの迷いも見せずに服をぬいだ
彼は鋼鉄のヒドラ（九頭蛇）の爪を開き
鋼鉄のメスを手にした
緑の草が 流された多量の血にもかかわらず
緑をのこしているのを見ると
ナイフを手に体も曲げず
娘も体をめぐりにかかった・・・
穴を広げて 彼は内臓を引き出した
死体は再び木かげに 醜い
残忍な本性は彼をいたわりの翼で包み込んだ

詠み飽きた やめるよ
もう読んだわ 私は孤独に飽きたわ みな孤独さ
だから僕は流れ歩く イカれてるといわれても
漂流してれば孤独でないと思うことができる
本当に孤独とを感じるよりマシだ
ある者たちは
野心とか働かねばという気持ちで
孤独をまぎらわせている 僕はできない
僕みたいな人間はイカれてると みな言う
この生き方のせいだでも ムチャかも知れないが
僕の行き方だ お袋もみなと同じだった
そんな生き方はよくないと
だがおやじが死んだ後
そう言っていたお袋がイカれた
だがいまさらどうでもいい
こういう気持ちになるとまた漂流がはじまる

この気持ち

戦争で爆撃を受けて
両親が住んでいた家だ 瓦礫
もどう破壊されたか見たい

僕の生まれた家を歩いてみたい
何をしゃべってるの
戦争中に爆撃されたんだよ

敵機だ 伏せろ
どうした
落ち着けよ
飛行機じゃないへりだ ベトコンじゃない
逃げる道はない 立てよ
アメリカの飛行機だ
タバコを？

面白い話がある
このあいだずっと住んでいた家の前を
通りがかった
家の前にピカピカの大型車が止まっていた
ツートンカラーの古い型の車だ
クロムがハデに光ってる
バブルカーのように美しく大きくて丸い
あんな美しい車を僕は見た事がない
イカれてた
今朝起きたら信じられない事が
今住んでいる家を出たら
何とその車がとまってた ふっとんだぜ
爆弾のように車全体がパーと光輝いた
バットマンの車のように
でなければギャングの車だ イカれてた
どう思う

ここに住んでいる
ひどい所だ
出たほうがいいよ よそへ移るんだよ
僕もそうする
じゃあな
おれも移るよ

さあ 怖がらないで 大丈夫よ
さあ 歩けるでしょ
お母さんなの？
ここよ

ママ アロイシュスだよ
ママの息子だよ
アリーだよ ママに会いに来た
居心地は

分かってるお前は息子だよ
その目はお前の目じゃない
お父さんから取ったのだよ
ママはイカれてるよ

飛行機の音がする
爆撃を受けた以来だよ また戦争

外へ出てくれるまた戻っていいわ
また戦争なの

ポップコーン
75セント
今の映画どう

あたしが覚えているのは
最初の方で蛆虫を食べている所と
後半で老女が妊娠した娘に
生まれてくる子が男なら
幸運を祈って鯨の油を塗り
もし女の子なら
雪を口につめて殺すという場面よ

50年台の話だ
サックスふきで
時代を超えたサウンド
時代に妥協することが出来なかった
ヨーロッパでも受けなかった
彼のサウンドは進みすぎていた
その時代のサウンドに自分を合わせ
なかった
やくにおぼれ、
ある日屋根に登り 飛び降り自殺の
決意
空も何もかも灰色
雲がザーと晴れた

何を聞きたい
バイブしててクレイジーな曲ならなん
でもいい

この銃がおれの法律だ
そうじゃない この銃が
おれの代わりに法をつくる
そうだ

※車を盗むエピソード

- ・ 叫ぶ女
- ・ 盗難品を買い取る男

(波止場で)

あんたも船に
着いたところだ
どこから
フランスのパリだ
生まれも
パリだ きみはニューヨーク？
出て行くところだ
おれと同じだ
何故
ゴタゴタがあつてパリを出た
友達は泣いている おれは泣かない
何かあるとよそへ移る これからはここがバビロ
ンだ ここに住む
パリはどう？
きみのバビロンになるよ
入れ墨を入れた この街を出る前にと
おれも1年前に
文字を ママ
ダイヤ型か いいね
行くよ 俺の家に
おれも

彼女にメモを書き残した
だが説明できることではない
僕は1ヶ所に落ち着けない 永久にだ
説明できることはもう何もない
それを説明したかった
そういう人間だ
仕事も家も税金も無関係
車はあっても悪くはない
去るといた時よりそこが懐かしく思える
いうなれば僕は旅人だ
僕の旅は 終わりのない休暇だ